日本語学校教職員のためのAI活用講座【授業・進路編】

清風情報工科学院
AI研究所
平岡憲人

目的

- 授業準備の時間を大幅削減
- 添削作業の効率化
- 進路指導の質向上
- 今日から使える実践テクニック

既存の教材から小テストを作る

- 毎週の小テスト作成が5分で完了
- 教科書から自動作成
- 問題形式も自由自在
- Google フォームにも対応

手っ取り早い方法

今すぐできる5つの方法

1. 教科書の写真から
2. 語彙リストから
3. 読解文から
4. 定番パターンで
5. Google フォーム対応

教科書の写真から問題作成

一番簡単！3ステップ

1. 教科書のページを撮影
2. 「この内容から10問の小テスト作って」
3. 「選択式で」「N3レベルで」など指定

所要時間：1分

語彙リストから自動問題生成

今週の新出語彙から

「歴史、経済、政治、社会、文化

これで以下を作って：

1. 意味を選ぶ問題
2. 例文の空欄補充
3. 正しい使い方を選ぶ問題」

読解文から問題作成

読解問題も自動生成

「この文章から：

内容理解の○×問題3つ

下線部の意味問題2つ

要約問題1つ

※N2レベル、解答付きで」

定番パターンの使い回し

一度作れば何度でも

「前回と同じ形式で、今回は第5課で」

保存しておくと便利：

漢字の読み10問

助詞の穴埋め10問

動詞の活用10問

Google フォーム用に整形

コピペで完成

「この問題をGoogle フォーム用に：
問題文
選択肢（ア、イ、ウ、エ）
正解
の形式で整理して」

応用的な方法

もっと効率化したい人向け

- 元データの準備と加工
- 選択肢の質向上
- 完全自動化への道

元データをつくって加工

- 構造化データの活用
- Excelで語彙リスト管理
- 品詞・レベル・例文を整理
- AIで一括問題化

選択肢の精度を上げる

より良い問題にするコツ

「選択肢は：

同じ品詞で

紛らわしいものを含めて

実際の誤用例を参考に」

自動的にGoogleフォームをつくる

スプレッドシート→フォーム
問題データをスプシに整理
スクリプトで一括変換
採点も自動化可能
※AIがスクリプトも書いてくれる

手書き作文・音読の添削

- 添削時間を大幅短縮
- 手書きも簡単にデジタル化
- 共通の間違いを発見
- フィードバックも効率的

手書き作文

- 紙の作文もデジタルで処理
- 文字起こしで時短
- 添削ポイントを自動抽出
- データとして蓄積可能

スマホで写真→即テキスト化

3ステップで完了

1. 作文を真上から撮影
2. Google レンズかAIアプリへ
3. 「手書き文字をテキスト化」

認識率：約80-90%

文字起こし＋即添削

一度の指示で両方

「文字起こしして、同時に：

ひらがなで書くべき漢字

漢字で書くべきひらがな

文法の間違い

を指摘して」

読めない文字の対処法

「読めない部分は【？】で」

きのう、がっこうで【？】をしました

→ 後で学生に確認リスト

クラス全体の漢字課題抽出

まとめて分析

「10枚の作文から：

1. みんなが間違える漢字TOP5
2. ひらがなで書いている重要語彙
3. N3漢字の未習得リスト」

Google ドキュメントでの共同作業

デジタル添削の利点

1. 文字起こしテキストをドキュメントに
2. コメント機能で添削
3. 学生と共有（閲覧のみ）
4. 履歴も残る

音読

発音チェックも効率化

音声ファイルで管理

自動で問題箇所発見

クラス全体の傾向分析

音声→テキスト変換で発音チェック（基本形）

発音の良し悪しを可視化

1. 学生の音読を録音
2. AIで文字起こし
3. 原文と比較

正しく認識 = 発音OK

効率的な音声提出の仕組み

Google フォームで一括管理

音声ファイルアップロード設定

自動でDriveに整理

「30秒以内、はっきり、ゆっくり」

AIによる問題箇所の特定

具体的な指摘が可能

「原文：日本の経済について

音声：にほんのけざいについて

→『経済』の『い』が発音されていません」

クラス共通の問題を発見

10人分をまとめて分析

結果例：

「経済」→「けざい」（8人）

「学校」→「がこう」（6人）

長音の省略が多い

簡易フィードバック作成

テンプレートで効率化

「3つ褒めて、2つ改善点を」

良い点：声の大きさ、スピード、明瞭さ

改善点：具体的に指摘

進路指導

情報処理と面接対策を効率化

募集要項の分析

想定問答の作成

多言語サポート

募集要項の必要箇所を見つける

40ページの要項も5分で把握

重要情報を自動抽出

比較表も簡単作成

見落としゼロへ

PDF/画像をまるごと投げる

最速の方法

1. 募集要項のPDFを用意
2. AIに送信
3. 「以下を抜き出して：
出願期間、必要書類、
試験日、受験料」

学生向けチェックリスト作成

留学生特有の注意点

「留学生が注意すべき点を抽出：

日本語能力の条件

翻訳が必要な書類

締切日（早い順）

留学生枠の有無」

複数大学の比較表作成

一目で分かる比較

「A大学、B大学、C大学を比較：

出願期間

JLPT要件

受験料

試験科目」

質問応答型の活用

よくある質問に即答

「この要項で：

Q: N2は必須？

Q: 卒業証明書は原本？

Q: 推薦状は誰から？」

→ 該当箇所を引用して回答

重要日程のカレンダー化

締切管理を確実に

「日程を時系列で整理：

9/1 願書受付開始

9/15 ○○書類締切⚠

10/1 出願締切

10/20 一次試験」

想定問答の作成

面接対策を効率的に

基本質問から個別対応まで

多言語での準備も可能

練習相手にもなる

素材を入れて目的を示す

基本の想定問答

「研究計画書の内容：[貼り付け]

大学院面接の想定問答を20個作って」

＋個人の情報を入れる

個別カスタマイズ

「追加情報：

母国：ベトナム

専攻：経済学

将来：母国で起業

これを踏まえた質問も追加」

＋質問リストを入れる

過去問の活用

「去年の面接で聞かれた質問：

1. なぜ日本か
2. 卒業後の進路
3. 研究の社会的意義

これらへの模範解答も」

NotebookLMを使う

複数資料から総合的に

募集要項

研究計画書

過去の面接記録

すべてアップロードして質問

QAを母語に翻訳

理解を深める工夫

「この想定問答を：

1. 日本語（原文）
2. 英語
3. 学生の母語

で並べて表示」

まとめ：明日から使える3つのこと

1. 教科書の写真から小テスト作成
2. 作文の写真で文字起こし＋添削
3. 募集要項をAIに読ませて要約

授業準備の時間が半分に！

次回予告：理論編

AIを上手に使うための基礎知識

文脈の重要性

効果的な指示の出し方

エラーへの対処法

より良い結果を得るために

授業・進路編

AIで授業準備と進路指導を効率的に
小テスト作成から進路指導まで
先生の負担を軽減します

既存の教材から小テストを作る

毎週の小テスト作成

30分→5分に短縮！

1. 手っ取り早い方法
2. 応用的な方法

教科書の写真から問題作成

1. 教科書の該当ページを写真撮影
2. AIに画像を送信
3. プロンプト：
「この内容から小テストを作って
文法問題5問（選択式）
語彙問題5問
N3レベルで」

語彙リストから自動問題生成

【AIへの指示】

「今週の新出語彙：

歴史、経済、政治、社会、文化

これで以下を作って：

1. 意味を選ぶ問題（4択）
2. 例文の空欄補充
3. 正しい使い方を選ぶ問題

各3問ずつ、解答付きで」

読解文から問題作成

【効率的な依頼】

1. 読解文をAIにドロップする
2. 「この文章から読解問題を：
    1. 内容理解o×問題：3問
    2. 下線部の意味：2問
    3. 文章の要約：1問

    N2レベル、解答と解説付きで」

※読解文は写真でもテキストでもOK

定番パターンの使い回し

1. テンプレートをつくり保存しておく（A）
2. テンプレート（A）をAIにドロップ
3. 「Aと同じ形式で、
   今回は第5課の内容で
   小テストを作って」

【テンプレート例】

- 漢字読み書き10問
- 助詞穴埋め10問
- 動詞活用10問
- 文型並び替え5問

Google フォーム用に整形

【整形させる】

1. 問題群をAIにドロップする。
2. 「この問題をGoogleフォーム用に：

   問題1：

   日本の＿＿＿＿は4つの島からなる。

   1) 地理
   2) 地図
   3) 土地
   4) 国土

   正解：4

   个この形式で全問整理して」

小テストづくり―応用的な方法

元データをつくって加工

選択肢の精度を上げる

自動的にGoogleフォームをつくる

元データをつくって加工

1. スプレッドシートに元データをつくる
   - A列：問題文
   - B列：選択肢1
   - C列：選択肢2
   - D列：選択肢3
   - E列：選択肢4
   - F列：正解
2. 元データをAIにコピペする
3. 「このデータから
   ランダムに10問選んで
   小テストを作成」

コピペは
・画面キャプチャ
・図としてコピー
・通常コピー
いずれでもよい

選択肢の精度を上げる

【良い選択肢を作るコツ】

「この問題の誤答選択肢を
　より迷いやすくして：
　同じ品詞で
　意味が近いもので
　N3で既習の語彙から」

※問題文を「最も適切なものを選べ」にする

自動的にGoogleフォームをつくる

【Google Apps Script（GAS）活用】

1. スプレッドシートに問題データ
2. スプシデータをAIにドロップ

   コピペは次の2つのいずれか

   ・画面キャプチャ

   ・図としてコピー

3. AIにスクリプト作成を依頼

コピペ時に
・行番号
・列番号
を含むように

続き

4. 「このデータから
   Googleフォームを
   自動作成するGASを書いて」
5. Google スプシの拡張機能＞Apps Script
6. AIが書いたGASを張り付ける
7. Apps Scriptの「▶実行」をクリック

手書き作文・音読の添削

手作業の添削の省力化

作文：手書き→デジタル化

音読：音声→テキスト化

AIで効率的にフィードバック

スマホで写真→即テキスト化

【基本の手順】

1. 作文を真上から撮影
（明るい場所で）
2. Google レンズ or AIアプリ
3. 「この手書き文字を
テキストに起こして」
4. 認識結果をコピー

※鉛筆より黒ペン推奨

iOS
「写真」アプリでは、
文字部分を自動的に
認識して、コピペ可能

文字起こし＋即添削

【一度に両方処理】
「この手書き作文を文字起こしして、
同時に以下を指摘して：
・ひらがなにすべき漢字
・漢字にすべきひらがな
・基本的な文法ミス
N3レベルとして評価すること」
結果が表で返ってくる！

読めない文字の対処法

「文字起こしして。
　読めない部分は【？】で表示」

結果例：

　きのう、がっこうで【？】をしました。
　たのしかったです。
　→【？】部分だけ学生に確認

クラス全体の漢字課題抽出

【10人分まとめて分析】
「これらの作文から次のものを抽出して：
1. よく間違える漢字TOP5
2. ひらがなで書かれている
　重要語彙リスト
3. N3で習ったのに
　使えていない漢字」
→クラス共通の弱点が見える

10作文一括より、
1作文づつ評価し、
評価結果を10人分
まとめて分析させる
ほうが精度がよい。

続き

【1人分評価→10人分まとめて分析】

1. 作文をAIにドロップ
2. 「この作文から次のものをYAML形式で抽出して:
    1. 間違えている漢字
    2. ひらがなで書かれている重要語彙
    3. N3で習ったのに使えていない漢字」
3. これを10回繰り返す→YAMLファイル10個

続き

【10人分まとめて分析】

「これらのYAMLファイルから次のものを抽出して:

1. よく間違える漢字TOP5
2. ひらがなで書かれている重要語彙リスト
3. N3で習ったのに使えていない漢字」

→クラス共通の弱点が見える

Google ドキュメントでの共同作業

【効率的なフィードバック】

1. 文字起こしテキストを
   Googleドキュメントに
2. コメント機能で添削
3. 学生と共有（閲覧のみ）
4. 学生は見ながら清書

手書き添削より見やすい！

音読の添削

音声→テキスト変換で
発音チェック

【基本の仕組み】

原理：正しく発音

→正しく文字起こしされる

手順：

1. 学生の音読を録音
2. AIで文字起こし
3. 原文と比較
4. ズレ＝発音の問題

効率的な音声提出の仕組み

【Googleフォームで収集】

1. フォーム作成
2. ファイルアップロード追加
3. 「音声ファイル（30秒以内）」
4. 自動的にDriveに保存

学生への指示：

「ゆっくり、はっきり、30秒で」

AIによる問題箇所の特定

【具体的な分析依頼】

「音声の文字起こしと原文を比較：

原文：日本の経済について

音声：にほんのけざいについて

発音の問題点を指摘して」

→「けいざい」が「けざい」に

クラス共通の問題を発見

【まとめて分析】
「10人分の音読結果から：
1. 共通して間違える単語TOP3
2. 苦手な音の傾向
3. 長音・促音の問題
を分析して」
→クラス全体の指導計画に

簡易フィードバック作成

【テンプレート活用】
「この学生の音読について
フィードバックを作成：
良い点：3つ
改善点：2つ
次回の目標：1つ
励ましの言葉を含めて」

進路指導

募集要項の山から
必要な情報を瞬時に抽出
学生一人一人に合わせた
進路指導を効率的に

PDF/画像をまるごと投げる

【最速の情報抽出】
1. 募集要項のPDFを用意
2. AIにアップロード
3. 「この募集要項から：
　　出願期間
　　必要書類
　　日本語要件
　　受験料
　　を抜き出して」

5秒で一覧表完成！

学生向けチェックリスト作成

【留学生特有の注意点】
「この募集要項から
留学生が特に注意すべき点を
チェックリスト化：
□ JLPT要件
□ 翻訳が必要な書類
□ 提出期限（早い順）
□ 受験料の支払い方法」

複数大学の比較表作成

【一度に比較】
「A大学、B大学、C大学の
募集要項を比較表に：
比較項目：
出願期間
JLPT要件
受験料
試験科目
留学生枠の有無」

質問応答型の活用

【NotebookLM】

NotebookLMに該当校該当学部の募集要項を入れる

学生：「N2じゃないとダメ？」

AI：　「募集要項の〇ページに
　　『N2以上、または日本語学校の
　　推薦がある場合は考慮』
　　とあります」

ページ番号付きで回答！

重要日程のカレンダー化

【NotebookLM：　時系列で整理】
「この募集要項の日程を
　カレンダー形式で：
　9/1 願書受付開始
　9/15 ○○書類締切⚠
　10/1 出願締切
　10/20 一次試験
　※早めの準備が必要なものに⚠」

面接の想定問答

素材を入れて目的を示す

【基本の想定問答作成】
研究計画書をAIにドロップ
「この研究計画書を基に
大学院入試の面接で
聞かれそうな質問を10個：
なぜこの研究か
研究の独自性は
卒業後の進路は」

＋個人の情報を入れる

【パーソナライズ】
研究計画書＋
「学生情報：
　中国出身、日本語N1
　母国の大学の学部は経済学部
　将来は日本で就職希望」
→より具体的な想定問答に

志望理由や研究計画に関係ありそうなことを追加で入れるのもあり
例.
・家族の仕事
・母国の卒論

＋質問リストを入れる

【過去問の活用】

「去年の面接質問リスト：

1. 志望動機
2. 研究方法について
3. 日本語での発表経験

これらを参考に

今年用の質問リストを作成」

回答文をつくる

【NotebookLM】

・志望理由

・研究計画

・関係書類

を入れる。

想定質問を（1つづつ）張り付けて、

「書類に基づいて回答して」

QAを母語に翻訳

【母語での理解促進】
「この想定問答を
　中国語に翻訳して。
　ただし専門用語は
　日本語のままで、
　説明を付けて」
→深い理解につながる

まとめ：明日から使える3つ

1. 教科書の写真から
   5分で小テスト作成
2. 手書き作文を写真で
   デジタル化＆添削
3. 募集要項から必要情報を
   5秒で抽出

まずは1つ試してみましょう！

授業･進路編

AIで授業準備と進路指導を効率的に
小テスト作成から進路指導まで
先生の負担を軽減します

1

既存の教材から小テストを作る

毎週の小テスト作成
30分→5分に短縮！
1. 手っ取り早い方法
2. 応用的な方法

2

教科書の写真から問題作成

1. 教科書の該当ページを写真撮影
2. AIに画像を送信
3. プロンプト：
「この内容から小テストを作って
文法問題5問（選択式）
語彙問題5問
N3レベルで」

3

語彙リストから自動問題生成

【AIへの指示】
「今週の新出語彙：
　歴史、経済、政治、社会、文化
これで以下を作って：
1. 意味を選ぶ問題（4択）
2. 例文の空欄補充
3. 正しい使い方を選ぶ問題
　各3問ずつ、解答付きで」

4

読解文から問題作成

【効率的な依頼】
1. 読解文をAIにドロップする
2. 「この文章から読解問題を作って：
　1. 内容理解○×問題：3問
　2. 下線部の意味：2問
　3. 文章の要約：1問
　N2レベル、解答と解説付きで」
※読解文は写真でもテキストでもOK

5

定番パターンの使い回し

1. テンプレートをつくり保存しておく（A）
2. テンプレート（A）をAIにドロップ
3. 「Aと同じ形式で、
　今回は第5課の内容で
　小テストを作って」

【テンプレート例】
- 漢字読み書き10問
- 助詞穴埋め10問
- 動詞活用10問
- 文型並び替え5問

AIが「5課」内容を知らない場合は？

5課のテキスト/語彙集/文型集を入れる
↓
事前に教科書を課単位でmarkdownやYAMLに変換しておく

6

Google フォーム用に整形

【整形させる】
1. 問題群をAIにドロップする。
2. 「この問題をGoogleフォーム用に：
   問題1：
   日本の_____は4つの島からなる。
   1) 地理
   2) 地図
   3) 土地
   4) 国土
   正解：4
   ↑この形式で全問整理して」

7

小テストづくり―応用的な方法

元データをつくって加工
選択肢の精度を上げる
自動的にGoogleフォームをつくる

8

元データをつくって加工

1. スプレッドシートに元データをつくる
   A列：問題文
   B列：選択肢1
   C列：選択肢2
   D列：選択肢3
   E列：選択肢4
   F列：正解
2. 元データをAIにコピペする
3. 「このデータから
   ランダムに10問選んで
   小テストを作成」

コピペは
・画面キャプチャ
・図としてコピー
・通常コピー
いずれでもよい

9

選択肢の精度を上げる

【良い選択肢を作るコツ】
「この問題の誤答選択肢を
より迷いやすくして：
同じ品詞で
意味が近いもので
N3で既習の語彙から」
※問題文を「最も適切なものを選べ」にする

AIは、迷いやすいものを作るのが得意。

迷いにくいものを作るのは苦手。

10

自動的にGoogleフォームをつくる

【Google Apps Script（GAS）活用】
1. スプレッドシートに問題データ
2.スプシデータをAIにドロップ
コピペは次の2つのいずれか
・画面キャプチャ
・図としてコピー
3.「このデータから
Googleフォームを
作成するGASを書いて」

コピペ時に
・行番号
・列番号
を含むように

プログラムは今のところ、Claudeが得意

11

続き

プログラムを何も知らなくても、勝手書いてくれるので、それを貼るだけ。

4. 生成されたGASをコピーする
5. Google スプシの拡張機能＞Apps Script
6. 表示されているプログラムの表示 my function { } を削除する。
7. AIが書いたGASを張り付ける
8. Apps Scriptの「▶実行」をクリック

12

手書き作文・音読の添削

手作業の添削の省力化
作文：手書き→デジタル化
音読：音声→テキスト化
AIで効率的にフィードバック

13

スマホで写真→即テキスト化

【基本の手順】
1. 作文を真上から撮影
（明るい場所で）
2. Google レンズ or AIアプリ
3. 「この手書き文字を
テキストに起こして」
4. 認識結果をコピー
※鉛筆より黒ペン推奨

反射が大敵。
反射して見えなかった部分は、AIでもどうしようもない。

iOS
「写真」アプリでは、文字部分を自動的に認識して、コピペ可能

14

文字起こし＋即添削

【一度に両方処理】
「この手書き作文を文字起こしして、
同時に以下を指摘して：
・ひらがなにすべき漢字
・漢字にすべきひらがな
・基本的な文法ミス
N3レベルとして評価すること」
結果が表で返ってくる！

15

読めない文字の対処法

「文字起こしして。
読めない部分は【？】で表示」
結果例：
きのう、がっこうで【？】をしました。
たのしかったです。
→【？】部分だけ学生に確認

16

クラス全体の漢字課題抽出

【10人分まとめて分析】
「これらの作文から次のものを抽出して：
1. よく間違える漢字TOP5
2. ひらがなで書かれている
重要語彙リスト
3. N3で習ったのに
使えていない漢字」
→クラス共通の弱点が見える

10作文一括より、
1作文づつ評価し、
評価結果を10人分
まとめて分析させる
ほうが精度がよい。

17

続き

【1人分評価→10人分まとめて分析】
1. 作文をAIにドロップ
2. 「この作文から次のものをYAML形式で抽出して:
    1. 間違えている漢字
    2. ひらがなで書かれている重要語彙
    3. N3で習ったのに使えていない漢字」
3. これを10回繰り返す→YAMLファイル10個

18

続き

【10人分まとめて分析】
１０個のYAMLファイルをドロップ
「これらのYAMLファイルから次のものを抽出して:
1. よく間違える漢字TOP5
2. ひらがなで書かれている重要語彙リスト
3. N3で習ったのに使えていない漢字」
→クラス共通の弱点が見える

19

Google ドキュメントでの共同作業

【効率的なフィードバック】
1. 文字起こしテキストを
Googleドキュメントに
2. コメント機能で添削
3. 学生と共有（閲覧のみ）
4. 学生は見ながら清書
手書き添削より見やすい！

20

音読の添削

21

音声→テキスト変換で発音チェック

【基本の仕組み】

原理：正しく発音
→正しく文字起こしされる

手順：

1. 学生の音読を録音
2. AIで文字起こし
3. 原文と比較
4. ズレ＝発音の問題

22

効率的な音声提出の仕組み

【Googleフォームで収集】

1. フォーム作成
2. ファイルアップロード追加
3. 「音声ファイル（30秒以内）」
4. 自動的にDriveに保存

学生への指示：
「ゆっくり、はっきり、30秒で」

23

AIによる問題箇所の特定

【具体的な分析依頼】

「音声の文字起こしと原文を比較：
原文：日本の経済について
音声：にほんのけざいについて
発音の問題点を指摘して」

→「けいざい」が「けざい」に

AIが人間に忖度しすぎて、こうはならない可能性高い。

24

クラス共通の問題を発見

【まとめて分析】
「10人分の音読結果から：
1. 共通して間違える単語TOP3
2. 苦手な音の傾向
3. 長音・促音の問題
を分析して」
→クラス全体の指導計画に

25

簡易フィードバック作成

【テンプレート活用】
「この学生の音読について
フィードバックを作成：
良い点：3つ
改善点：2つ
次回の目標：1つ
励ましの言葉を含めて」

こういうフィードバックは作文の時も有効。

26

進路指導

募集要項の山から
必要な情報を瞬時に抽出
学生一人一人に合わせた
進路指導を効率的に

27

PDF/画像をまるごと投げる

【最速の情報抽出】
1. 募集要項のPDFを用意
2. AIにアップロード
3. 「この募集要項から：
   出願期間
   必要書類
   日本語要件
   受験料
   を抜き出して」

5秒で一覧表完成！

28

学生向けチェックリスト作成

【留学生特有の注意点】
「この募集要項から
留学生が特に注意すべき点を
チェックリスト化して：
□ JLPT要件
□ 翻訳が必要な書類
□ 提出期限（早い順）
□ 受験料の支払い方法」

29

複数大学の比較表作成

【一度に比較】
「A大学、B大学、C大学の
募集要項を比較表に：
比較項目：
出願期間
JLPT要件
受験料
試験科目
留学生枠の有無」

比較はいろいろできる
・去年と今年の比較
・A学部とB学部の比較
・募集要項ではなくパンフの比較

30

質問応答型の活用

【NotebookLM】
NotebookLMに該当校該当学部の募集要項を入れる
学生：「N2じゃないとダメ？」
AI：　「募集要項の〇ページに
　　『N2以上、または日本語学校の推薦がある場合は考慮』
　　とあります」
ページ番号付きで回答！

日本語がわからないなら、「〇〇語で答えて」「〇〇語に翻訳して」

31

重要日程のカレンダー化

【NotebookLM：　時系列で整理】
「この募集要項の日程を
　以下のカレンダー形式で：
　9/1 願書受付開始
　9/15 ○○書類締切⚠
　10/1 出願締切
　10/20 一次試験
　※早めの準備が必要なものに⚠」

こういう例示には、大事なものこそ入れるべき。

例えば、「納付金締め切り」が大事なら、書いとくんだよ！

32

面接の想定問答

33

素材を入れて目的を示す

【基本の想定問答作成】
研究計画書をAIにドロップ
「この研究計画書を基に
大学院入試の面接で
聞かれそうな次のような質問を10個：
なぜこの研究か
研究の独自性は
卒業後の進路は」

34

＋個人の情報を入れる

【パーソナライズ】
研究計画書＋
「学生情報：
中国出身、日本語N1
母国の大学は経済学部
将来は日本で就職希望」
→より具体的な想定問答に

志望理由や研究計画に関係ありそうなことを追加で入れるのもあり
例.
・家族の仕事
・母国の卒論
・研究室のWEB内容

35

＋質問リストを入れる

【過去問の活用】
「去年の面接質問リスト：
1. 志望動機
2. 研究方法について
3. 日本語での発表経験
これらを参考に
今年用の質問リストを作成」

36

回答文をつくる

【NotebookLM】
・志望理由
・研究計画
・関係書類
を入れる。
想定質問を（1つづつ）張り付けて、
「書類に基づいて回答して」

もし、想定質問が50個ある場合、50個まとめて聞くよりも、1個1個、別々に聞いた方が、いい答えが返ってくる。

37

QAを母語に翻訳

【母語での理解促進】
「この想定問答を
　中国語に翻訳して。
　ただし専門用語は
　日本語のままで、
　説明を付けて」
→深い理解につながる

38

おまけ

39

スレッドの使い分け

・悪い　・・・　ごった煮、何度も結論変化
　　→出力が散らかる
・よい　・・・　上から下に議論が流れる
　　話題が一貫している
　　→出力が整う
※別の話題は別のスレッドでする

40

スレッドが飽和したら

・飽和する前に、
「次のスレッドに移動するので、引継ぎ文書をつくって」
・議論のネタがそろっていた発言まで戻り、その発言の次の発言を編集
→引継ぎ文書方式よりよい出力
　より濃密な文脈を与えられるから

41

まとめ：明日から使える3つ

1. 教科書の写真から
　5分で小テスト作成
2. 手書き作文を写真で
　デジタル化＆添削
3. 募集要項から必要情報を
　5秒で抽出

まずは1つ試してみましょう！

42

授業・進路編

AIで授業と進路とプロジェクトを効率的に

小テスト作成から卒進展示会まで
先生の負担を軽減します

清風情報工科学院　AI研究所　平岡憲人　2025.8

既存の教材から小テストを作る

毎週の小テスト作成

30分→5分に短縮！

1. 手っ取り早い方法
2. 応用的な方法

教科書の写真から問題作成

1. 教科書の該当ページを写真撮影
2. AIに画像を送信
3. プロンプト：
「この内容から小テストを作って
用語問題5問（選択式）
技術問題5問
ITパスポートレベルで」

語彙リストから自動問題生成

【AIへの指示】

「今週の新出語彙：

TCP/IP、ネットワーク、サブネット、ルーティング

これで以下を作って：

1. 意味を選ぶ問題（4択）
2. 例文の空欄補充
3. 用語の正しい使い方を選ぶ問題

各3問ずつ、解答付きで」

説明文から問題作成

【効率的な依頼】

１．説明文をAIにドロップする

２．「この文章から問題を作って：

1. 内容理解○×問題：3問
2. 下線部の意味：2問
3. 文章の要約：1問

ITパスポートレベル、解答と解説付きで」

※説明文は写真でもテキストでもOK

定番パターンの使い回し

1. テンプレートをつくり保存しておく（A）
2. テンプレート（A）をAIにドロップ
3. 「Aと同じ形式で、
   今回は第5課の内容で
   小テストを作って」

【テンプレート例】

- 専門用語の使い方10問
- 穴埋め10問
- 類似用語10問

AIが「5課」内容を知らない場合は？

5課のテキスト/語彙集を入れる
↓
事前に教科書を課単位でmarkdownやYAMLに変換しておく

Google フォーム用に整形

【整形させる】

1. 問題群をAIにドロップする。
2. 「この問題をGoogleフォーム用に：

   問題1：

   コンピュータの基本装置として適切でないものを選べ。

   1) 演算装置

   2) 記憶装置

   3) 発注装置

   4) 入力装置

   正解：3

   ↑この形式で全問整理して」

小テストづくり―応用的な方法

元データをつくって加工

選択肢の精度を上げる

自動的にGoogleフォームをつくる

元データをつくって加工

1. スプレッドシートに元データをつくる
   - A列：問題文
   - B列：選択肢1
   - C列：選択肢2
   - D列：選択肢3
   - E列：選択肢4
   - F列：正解
2. 元データをAIにコピペする
3. 「このデータから
   ランダムに10問選んで
   小テストを作成」

コピペは
・画面キャプチャ
・図としてコピー
・通常コピー
いずれでもよい

選択肢の精度を上げる

【良い選択肢を作るコツ】

「この問題の誤答選択肢を
　より迷いやすくして：
　同じ分野の用語で
　意味が近いもので
　ITパスポートレベルの語彙から」

※問題文を「<u>最も適切なものを選べ</u>」にする

AIは、迷いやすいものを作るのが得意。

迷いにくいものを作るのは苦手。

自動的にGoogleフォームをつくる

【Google Apps Script（GAS）活用】

1. スプレッドシートに問題データ
2. スプシデータをAIにドロップ

   コピペは次の2つのいずれか

   ・画面キャプチャ

   ・図としてコピー

3. 「このデータから

   Googleフォームを

   作成するGASを書いて」

コピペ時に
・行番号
・列番号
を含むように

プログラムは今のところ、Claudeが得意

続き

プログラムを何も知らなくても、勝手書いてくれるので、それを貼るだけ。

4. 生成されたGASをコピーする
5. スプシの拡張機能＞Apps Script
6. 表示されているプログラムの表示 my function { } を削除する。
7. AIが書いたGASを張り付ける
8. Apps Scriptの「▶実行」をクリック



この部分を消して、GASを貼り付ける

進路指導

求人情報の山から
必要な情報を瞬時に抽出
学生一人一人に合わせた
進路指導を効率的に

PDF/画像をまるごと投げる

【最速の情報抽出】
1. 求人情報のPDFを用意
2. AIにアップロード
3. 「この求人情報から：
　　出願期間
　　必要書類
　　必要要件
　　エントリー方法
　　を抜き出して」

5秒で一覧表完成！

学生向けチェックリスト作成

【留学生特有の注意点】
「この募集要項から
留学生が特に注意すべき点を
チェックリスト化して：
□ 日本語要件
□ 翻訳が必要な書類
□ 採用手順
□ エントリー方法」

複数企業の比較表作成

【一度に比較】
「A社、B社、C社の
求人情報を比較表に：
比較項目：
エントリー期間
技術要件
待遇
求める人材像
留学生枠の有無」

比較はいろいろできる：

・去年と今年の比較
・A職種とB職種の比較
・求人情報ではなくパンフや求人サイトの比較

質問応答型の活用

【NotebookLM】

NotebookLMに該当企業該当職種の求人情報を入れる

学生：「スーツじゃないとダメ？」

AI：　「求人情報の〇コーナーに
　　『服装規定ありません。
　　営業職は別途規定あります。』
　　とあります」

出典付きで回答！

日本語がわからないなら、「〇〇語で答えて」「〇〇語に翻訳して」

重要日程のカレンダー化

【NotebookLM：　時系列で整理】
「この求人情報の日程を
以下のカレンダー形式で：
9/1 エントリー受付開始
9/15 ○○書類締切⚠
10/1 エントリー締切
10/20 一次試験
※早めの準備が必要なものに⚠」

こういう例示には、大事なものこそ入れるべき。

例えば、「作品締め切り」が大事なら、書いとくんだよ！

発表の添削

音声→テキスト変換で
文字起こし

【基本の仕組み】

原理：文字起こし

→指定した観点で評価させる

手順：

1. 学生の発表を録音
2. AIで文字起こし
3. 観点を示して評価させる
4. 学生にフィードバックする

効率的な音声提出の仕組み

【Googleフォームで収集】

1. フォーム作成
2. ファイルアップロード追加
3. 「音声ファイル」
4. 自動的にDriveに保存

学生への指示：

「ゆっくり、はっきり、間をとって」

AIによる問題箇所の特定

【具体的な分析依頼】

「この発表を次の観点で評価して：

わかりやすさ・論理性

技術的な正確さ

目的と内容が対応しているか」

→この発表は・・・がよくて、・・・な改善点

出力が難しすぎる可能性がある。
→初心者にもわかりやすく指摘して。

愛情をもって評価して。
ほめベースで評価して。

簡易フィードバック作成

【テンプレート活用】
「この学生の発表について
フィードバックを作成：
良い点：3つ
改善点：2つ
次回の目標：1つ
励ましの言葉を含めて」

クラス共通の問題を発見

【まとめて分析】

「10人分の評価結果から：

1. 発表の構成
2. 言葉遣い
3. 技術的な正確性

を分析して」

→クラス全体の指導計画に

失敗を糧に変えるプロンプト

この失敗経験を前向きな学習経験として説明:

失敗:「デザインとの実装が大幅に遅れた」

以下を含めて再構成:

- 何が原因だったか（分析）
- どう対処したか（解決策）
- 何を学んだか（成長）
- 次はどうするか（改善）

効果的な説明の構成

この作品説明をSTAR法で構成してください:

現在の説明:[既存の説明文]

S(Situation):どんな課題・背景があったか

T(Task):何を実現しようとしたか

A(Action):どのように取り組んだか

R(Result):どんな成果・学びがあったか

想定問答

素材を入れて目的を示す

【基本の想定問答作成】
システムの企画書、設計書をAIにドロップ
「私は[Web制作/ゲーム開発/アプリ開発]の作品を展示します。
（作品概要：[作品の説明]）
（使用技術：[使用した技術・ツール]）
企業の方から聞かれそうな質問を、以下のカテゴリーで各3つずつ生成してください：

1. 技術的な質問
2. 制作プロセスに関する質問
3. チーム開発に関する質問
4. 今後の改善点に関する質問」

＋個人の情報を入れる

【パーソナライズ】
企画書類＋
「学生情報：
鳥取出身、ゲーム専攻
プログラミング得意
ゲーム会社で就職希望」
→より具体的な想定問答に

企画に関係ありそうなことを追加で入れるのもあり
例.
・技術情報
・類似サービス
・志望企業情報

＋聞きたいことリストを入れる

【企業の方に直接きいてみたいこと】

「去年の就職面接質問リスト：

1. 志望動機
2. ほしい人材像
3. 必要な技術スタック

これらを参考にして、

これらを引き出せる発表の仕方・逆質問の作成」

学生TIPS

「この作品を見ていただいて、実務ではどのような 点を改善すべきだと思われますか？」

→ 企業が重視するポイントが分かる

→ 学習意欲をアピールできる

→ 具体的なアドバイスがもらえる

回答文をつくる

【NotebookLM】

・企画書
・個人情報
・聞きたいこと

を入れる。

想定質問を（1つづつ）張り付けて、

「書類に基づいて回答して」

もし、想定質問が50個ある場合、50個まとめて聞くよりも、1個1個、別々に聞いた方が、いい答えが返ってくる。

一回当たりの返答にかける電気代は決まっています。たくさん聞けば、1つに充てるエネルギーが減る＝解答品質落ちる

QAを母語に翻訳

【母語での理解促進】
「この想定問答を
　英語に翻訳して。
　ただし専門用語は
　日本語のままで、
　説明を付けて」
→深い理解につながる

AIを使えばできること

興味を追求していくこと

双方向のやりとりが必要なこと

言葉や絵やコードの評価が必要なこと

AIで効率的にフィードバック

興味の追求

「天才ゲームクリエーターとして、私のゲームのコンセプトメイキングに付き合ってくださいな。」

延々と付き合ってくれ、仕上げまでもっていってくれる。

出来上がったら「コンセプト.md」で保存

興味の追求

コンセプト.mdを貼る

「このゲームに必要なシーンリストをつくって。」

完成したら、シーンリスト.mdとして保存。

コンセプト.md、シーンリスト.mdを貼る

「このゲームに必要なアイテムリストをつくって」 →アイテムリスト.mdとして保存

興味の追求

コンセプト.md、アイテムリスト.mdを貼る

Blender MCPを接続しておく。

「このアイテムリストに基づいて、各アイテムの3Dモデルをつくって、アイテム別に保存して。」

Blender上にアイテムが生成される。

アイテムの3Dモデルが一式できる。

双方向のやりとりが必要なこと

「チーム開発の課題設計

- Git演習シナリオの作成
- コンフリクト解決の練習問題
- プルリクエストのレビュー例

これらの内容を含んだ授業を行いたい。カリキュラムを作って。対象者は、専門学校１年生。できるだけ短いコードをネタに。」

双方向のやりとりが必要なこと

「プロジェクト仕様書の作成

- 要件定義書のテンプレート生成
- ER図・クラス図の下書き
- 開発スケジュールの提案

これらの内容を含んだ授業を行いたい。カリキュラムを作って。対象者は、専門学校１年生。できるだけ短いコードをネタに。」

双方向のやりとりが必要なこと

これらの要所要所で必要となるAIのプロンプトも作ってもらう。

「この局面で学生を導くAI用のプロンプトをつくって」

そのプロンプトを仕込んで、必要なデータを入れて、質問開始。

AIが適切な回答を返してくる。

言葉や絵・コードの評価が必要なこと

技術面接対策

・よくある技術質問と模範解答

・コーディングテストの練習問題

・アルゴリズム問題の解説作成

言葉や絵・コードの評価が必要なこと

ポートフォリオレビュー

「このWebデザインについて分析して:

- 配色のバランスと印象
- タイポグラフィの統一性
- 余白の使い方
- 視線誘導の効果
- アクセシビリティの観点」

言葉や絵・コードの評価が必要なこと

「このデザインを2025年のトレンドと比較：

- 現在主流のデザイン要素
- 古く見える可能性がある部分
- 業界標準との差異
- 改善提案」

言葉や絵・コードの評価が必要なこと

「この作品説明を改善して：
現在：『〇〇会社のWebサイトを作りました』
以下を含めて：

- 課題と解決方法
- デザインコンセプト
- 使用ツール・技術
- 成果・効果（可能なら）」

言葉や絵・コードの評価が必要なこと

Before/After の効果的な見せ方

「リデザイン案の説明を作成:

- 変更点の明確化
- 改善理由の説明
- 数値での効果（予測でも可）
- ビジュアルでの比較方法」

言葉や絵・コードの評価が必要なこと

- 構成・ナビゲーション
- 経験をスキルマトリックスに
- 作品分析
- 広告業界向けにアピールポイント
- 説明文のブラッシュアップ
- 面接対策

おまけ

チャットスレッドの使い分け

・悪い　・・・　ごった煮、何度も結論変化
→出力が散らかる

・よい　・・・　上から下に議論が流れる
話題が一貫している
→出力が整う

※別の話題は別のスレッドでする
例えば、翻訳の話の最中に
料理のレシピの話を混ぜない

スレッドをきれいに保つコツ

- 質問への回答が気に食わない
  → 追加質問
  → さらに追加質問
  これだと、結論が2転3転になる
- 質問への回答が気に食わない
  → その質問を書き換える
  これだと、ベスト質問にベスト解答になる



納得いくまで
繰り返す

スレッドが飽和したら

- 飽和（最大文字数に達しました）する前に、
  「次のスレッドに移動するので、引継ぎ文書をつくって」
- 議論のネタがそろっていた発言まで戻り、その発言の次の発言を編集
  →引継ぎ文書方式よりよい出力
  より濃密な文脈を与えられるから

まとめ：明日から使える3つ

1. 教科書の写真から
   5分で小テスト作成
2. 採用情報から必要情報を
   5秒で抽出
3. 発表と質疑のレベルアップ

まずは1つ試してみましょう！